

# 中野北溟記念 北の書みらい賞 受賞者展

日本を代表する書家中野北溟氏の功績を記念し、40代以下の北海道在住書家の育成と支援を目的に創設した北の書みらい賞。第4回(2024年)受賞4作品と第3回(2023年)受賞者4人が制作した12作品を紹介します。

## 《出品書家》

- 第4回大賞 小室聡美(幕別町)  
第4回奨励賞 池田憲亮(小樽市)、寺沢霰花(登別市)  
中川佳奈(北見市)  
第3回大賞 高橋竜平(札幌市)  
第3回奨励賞 赤間裕堂(音更町)、木柳不吟(旭川市)  
栗本万由有(愛別町)

2024年7月30日(火)~8月4日(日)  
10時~18時(8月4日17時終了)

## 道新プラザ DO-BOX

札幌市中央区大通西3 北海道新聞本社1階

主催／特定非営利活動法人北の書みらい基金 共催／北海道新聞社

ホームページ <http://www.kitanosho.jp/>

問い合わせ 道新文化事業社 011-241-5161

## 第4回中野北溟記念北の書みらい賞受賞作品

大賞(奨励金50万円)

「舞」 小室聡美



242×61cm



小室聡美 (こむろ さとみ)

1985年生まれ、音更町出身。2008年、16年奎星展奎星賞、17年毎日書道展秀作、21年、22年、24年北海道書道展秀作、22年宇野雪村賞全国書道展奎星賞、十勝文化団体協議会文化新賞(書・舞踊)。23年「第54回おびひろ菊まつり『書と音楽のインプロビゼーション(即興)』ライブ揮毫」他。奎星会無鑑査会員、毎日書道展会友。幕別町在住。

### 受賞の言葉

このたびは、大賞という大変光栄な賞をいただき、驚き、嬉しさ、感謝の気持ちと同時に、身の引き締まる思いしております。

ひらひらと蝶が舞うように踊る情景をイメージして書いた作品です。

その時々で、感じたこと、心が動いた感動を、前衛書をとおして表現してきました。

これからも自分らしい書表現とは何か、探求・挑戦し続け、観る人が何かを感じ、心が動く作品を作っていけるよう、益々精進してまいります。

本当にありがとうございました。

## 奨励賞(奨励金各20万円)

### 「徳望」 池田憲亮



242×85cm



#### 池田憲亮(いけだけんりょう)

1984年生まれ、小樽市出身。2011年大東文化大学大学院書道学専攻修了。16年、22年毎日書道展毎日賞、17年、23年北玄12人展出品。23年小樽文化奨励賞。毎日書道展会員、創玄書道会審査会員、北海道書道展会友、天台宗書道連盟会員。書道研究臥牛社主宰。小樽市在住。

#### 受賞の言葉

昨年の第3回審査講評文にて、阿部典英先生が中野北溟先生のお言葉を引用されていました。『デタラメをやれ。』今回の拙作は、書の世界からみると作品形式上においても、字源においても『デタラメ』と講評を頂き、猛省をしておりました。

それでも大きな紙に向き合い、思い切り書いた気持ちですが、選考委員の諸先生に受け取っていただけたのかな? と思っております。来年の新作発表の展覧会では少しでも『デタラメ』をなくし、もっと思い切りの良い作品が書けるように精進いたします。

この度は奨励賞という過分なる御評価を賜り、本当にありがとうございました。

### 「鷹」 寺沢霞花



160×90cm



#### 寺沢霞花

(てらさわさんか)

1980年生まれ、登別市出身。2016年、19年国際現代書道展会友賞、17年、18年北海道書道展特選。国際現代書道展会員、北海道書道展会友。2003年苫小牧市立緑陵中学校勤務、13年から中国天津市に在住、登別市立登別小学校勤務。墨生書道学院所属。登別市在住。

#### 受賞の言葉

この度は、奨励賞をいただき、驚きと喜びでいっぱいです。進学・就職・結婚・出産など、人生の節目で書道が続けるのが難しいのでは…と考えることがありましたが、熱心に指導して下さる山崎光雲先生や書道仲間など、周りの皆さんのおかげで楽しく続けることができています。

紙や墨の状態で思いかけない線が書けることもあり、書道の奥深さを感じています。これからも全身で力いっぱい書き、表現の幅を広げていきたいです。本当にありがとうございました。

## 「群鳶の舞」 中川佳奈



120×120cm



中川佳奈 (なかがわ かな)

1995年生まれ、夕張市出身。  
2015年北海道書道展特選、23  
年創玄現代書展入選。北海道  
書道展会友。北見市在住。

### 受賞の言葉

この度は、奨励賞という身に余る賞を賜りまして、心より感謝申し上げます。日頃よりご指導頂いている先生方をはじめ、温かく支えてくださる皆様のおかげにほかなりません。

過大な評価を頂いたことは大変光栄であるとともに、本賞に込められた期待や展望を考えると、より身の引き締まる思いです。

今後も現状に甘んじることなく、筆をとる喜びを胸に多様な書表現の探求に励んでまいります。本当にありがとうございました。

## 第4回選考会推薦作品出品者 (50音順、在住地は2024年2月現在)

池田憲亮(小樽市)、金谷紅麟(函館市)、川人進(滝川市)、木柳不吟(旭川市)、  
栗本万由有(愛別町)、小室聡美(幕別町)、酒井まな(札幌市)、櫻井明子(函館市)、  
清水謙語(札幌市)、杉村帰心(旭川市)、高濱渉(帯広市)、田邊友菜(士幌町)、  
寺沢霞花(登別市)、中川佳奈(北見市)、二峰亜紀(北広島市)、星野壮風(札幌市)、  
本城愛子(札幌市)

## 第4回中野北溟記念北の書みらい賞審査講評

この度の選考会もまた前回同様に、投票を重ねることを主としたものとなったが、特に、投票制によって現れた数値に対する評価の仕方についてはかなりシビアに対応する必要があることをあらためて審査員相互に確認し得たことは有意義であった。しかし、大賞一点を選ぶ最終的な投票においては、結果として、票が割れることなく一点に集中した。だからといって、果たしてその大賞受賞作が、本当の意味において本展の主意に適ったものとなっていたかどうかは俄に判断し得るものではないだろう。審査の評価はこの先の時間が洗い出してくれるものだ。それにしても若い書家に望みたい。書の表現とは何なのか。スタイルと決別しつつ、改めて深く思索してみてもどうか。

選考委員長 武田 厚氏 (美術評論家、多摩美術大学客員教授)

今回選考されました作品は10代2名、20代3名、30代3名、40代9名の17名です。最年少者は17歳、最年長は49歳の方で、平均年齢は37歳です。審査時には、このような内容は一切伏せられ、作品に付与された番号だけで審査が開始されます。

審査は、話し合いながら計4回の投票によって、5点まで作品が絞り込まれます。それから審

査員全員がそれぞれの作品について、意見を述べ合った後、さらに投票を行い、その結果で受賞作品が決定されました。

今回、大賞を受賞された小室聡美さんの『舞』はドリップング技法で、軽快なリズムによる秀逸な作品。奨励賞の池田憲亮さんの『徳望』はユーモアがあり、作品全体が顔に見えて面白い作品。寺沢霞花さんの墨象作品は樹枝上の鷹の像。中川佳奈さんの『群鸞の舞』は富安風生の俳句か、上部に御空の工夫があれば、さらに素晴らしいと思います。

選考委員 阿部典英氏（美術家・北海道文化財団副理事長）

現代のメディア社会を見渡すと、かつてよりも非常に多くの筆文字表現が拡がって認められます。ただし、その世界観や思想は、伝統的な書の本来像とは質の異なるものです。筆と墨と紙を用いて人の手から生まれ出る書表現の味わいや表情の豊かさ一線を画す前衛性は、時代の移ろいを端的に示しているものの、その浸透していく様子には、意外と気づかないものなのでしょう。この狭間に「前衛書」の存在があるならば、新たな書の創造にも未来があるのだと信じます。今回は、書の抽象性を工夫した作品が大賞に選ばれました。言葉ではない、漢字造形の多様さを土台として、そこに人の運きの印象が融合された華麗な作品でした。

選考委員 笠嶋忠幸氏（公益財団法人出光美術館首席学芸員）

今回の選考では、初めて前衛書を大賞に採りました。本賞創設の目的にある「未来を担う書家を育成、支援する」には、先人の轍をなぞるだけでなく、新しい道を拓く冒険者であれ、との思いが込められていると私は解釈しています。前衛書はその精神を体現しやすい一方で、抽象度の高い作品であればあるほど作者の創造力が問われることにもなります。結果、受賞作に関する議論は白熱しました。ひるがえって、漢字やかな、詩文書などは、師の背中を乗り越えていく「型破り」な意志がいかにも宿っているのかに着目します。今後も意欲的な作品に出会うことを楽しみにしています。

選考委員 古家昌伸氏（編集者・アトラクター）

今回の選考会で注目を集めたのは、文字か非文字かに関わらず、筆墨の躍動するさまが魅力的な作品でした。一方、明らかに文字を題材としているのに、文字構成に疑問が残るなど、判断が難しく意見が分かれる作品もありました。北の書みらい賞が「書」を対象とする以上、「書」としての魅力はもちろんのこと、文字文化に対する理解や見識も問われるものと考えます。何気なく書いた卒意の書でも、相当に作り込んだ畢生の大作でも、書家が制作のうえで「何」を大切にしているのか、それはおのずと鑑賞者に伝わってくるでしょう。その「何」にこそ、書家の「みらい」が詰まっている、と思います。

選考委員 齊藤千鶴子氏（北海道立釧路芸術館学芸主幹）

文字としての表記や意味をどこまで保つべきか、造形性と文字性の、言わばせめぎ合いが書という芸術には常につきまとう。今回の審査においても、そうした議論を伴う場面がしばしば見られた。その意味では、エントリーされた書のなかに大胆な造形性に振れた作品が多かったということか。

抽象性や造形性が際立つ大賞受賞作品をはじめ、書という芸術の境界とは何か、そのアイデンティティーを揺さぶりかねない作品が奨励賞受賞作にも目立つ選考会であった。本賞の未来を占う機会ともなったように思う。

選考委員 佐藤幸宏氏（札幌芸術の森美術館館長）



左から古家氏、笠嶋氏、武田氏、阿部氏、佐藤氏、齊藤氏、北の書みらい基金村田正敏理事長。2024年5月8日、北海道新聞本社DO-BOX

## 第3回中野北溟記念北の書みらい賞受賞者の作品

高橋竜平 .....



馬馬虎虎

180×270cm



気魄

70×175cm



岬にて風唄う

岬にて風唄う 神威岬の響き

52×231cm



高橋竜平 (たかはしりゅうへい)

1989年生まれ、札幌市出身。2010年、13年毎日書道展U23毎日賞、14年創玄展創玄書道会賞、20年書創展書創社大賞、22年北海道書道展大賞。現在北海道書道展会員、毎日書道展会員、創玄書道会審査会員、日本詩文書作家協会正会員。市立札幌開成中等教育学校教諭。授業の実践が高等学校教科書「書道Ⅱ」(教育出版)に掲載。



源氏物語の世界 白楽天詩長恨歌 4幅 各54×227cm  
 漢皇重色思傾國 御宇多年求不得 楊家有女初長成 養在深閨人未識 天生麗質難  
 自棄 一朝選在君王側 迴眸一笑百媚生 六宮粉黛無…… (白氏文集・白居易)



源氏物語の世界 桐壺  
 いづれの御時にか 女御更衣  
 あまたさふらひたまひけるなか  
 に いとやむごとなき際にはあら  
 ぬが すぐれて時めきたまふあり  
 けり…… (源氏物語)  
 70×70×150(高さ)cm  
 陶芸、針金、樹脂



源氏物語の世界  
 比翼連理  
 227×53cm



赤間裕堂 (あかまゆうどう)

1985年生まれ、十勝管内音更町出身。2009年音更町文化奨励賞、16年日展入選、20年十勝文化奨励賞、第4回個展(帯広・弘文堂画廊)、21年TOKACHI書2021出品。22年「四書人師魯久窯に遊ぶ」出品、第5回個展(帯広・GALLERIAオリザ)。読売書法展会友、謙慎書道会理事、寄鶴文社準会員、十勝文化会議会員。10年書道教室裕徳社設立・主宰。音更町在住。

木柳不吟 .....



坂村真民 詩

150×150cm

華嚴 古木白木蓮の一斉開花の見事さ まさに  
一華一佛の華嚴 坂村真民の詩より



法然の祈り

120×120cm

法然の祈り 念佛往生を願う



頓悟  
(宋書)

240×90cm



木柳不吟 (きやなぎ ふぎん)

1976年生まれ、旭川市出身。2018年創玄展準大賞、21年毎日書道展毎日賞。北海道書道展会友、毎日書道展会友、書創社常任理事、創玄書道会二科審査員、クリーンUP代表。旭川市在住。

栗本万由有 .....



是非非非

60 × 180cm

是非非非 是非非非謂之智非是非非謂之愚  
〔荀子〕修身編



人生

175 × 140cm

人生は時折美しい ホイッティアの詩より



ころ削る  
ころ削る ころ削る美が

136 × 140cm



栗本万由有 (くりもとまゆう)

1997年生まれ、旭川市出身。2018、21年毎日書道展U23毎日賞、19、22年創玄現代書展白鷗賞、20年第61回北海道書道展にて大字書、詩文書の2部門で特選、22年毎日書道展毎日賞。北海道書道展会友。上川管内愛別町在住。



## 中野北溟氏

日本を代表する書家。毎日書道会最高顧問、創玄書道会最高顧問、日展会員、北海道書道連盟顧問、天竺社代表。札幌市在住。

1923年7月31日、北海道苫前郡焼尻村（現在の羽幌町）生まれ。北海道第三師範学校（現在の北海道教育大学旭川校卒業。豊富、稚内、旭川、札幌で教員を務めながら毎日書道展、北海道書道展などに出品し、審査会員として活躍する。

79年札幌市立札幌中学校校長を早期退職し、書に専念、海外でも作品を発表する。90年北海道新聞文化賞受賞、99年毎日芸術賞を岡井隆氏、河野多恵子氏、蛭川幸雄氏、高倉健氏らと受賞。2005年東京日本橋三越、09年北海道立近代美術館で個展開催。

長年、日展、毎日書道展、創玄展、現代の書 新春展など全国トップクラスの書展で作品を発表するとともに、北海道書道展、北海道書道連盟では理事長など役員を歴任し、北海道書道界の発展に寄与してきた。

中野氏は師の金子鷗亭氏からの上京の誘いを断わり、札幌で書活動が続けてきた。太平洋戦争中の一時期（久留米予備士官学校）を除き、北海道を離れることがなかった。スポーツの才能にも恵まれ、テニス選手として国体に出場している。

23年7月に満100歳を迎えたが、北海道書道展、毎日書道展など道内外で作品を発表するなど、制作や後進への指導など精力的に書活動を行っている。また、24年1月に札幌市に作品731点を寄贈、3月には、国立アイヌ民族博物館（白老町）に「イランカラッテ」と揮毫した新作2点を寄贈した。



第3回北の書みらい賞贈呈式  
中野北溟氏 100歳の誕生日を祝う  
2023年7月31日、札幌グランドホテル

© 北海道新聞社

## 特定非営利活動法人 北の書みらい基金

### 設立趣旨

北海道は書道が盛んな地域です。近代詩文書の創始者金子鷗亭(松前町出身)や漢字書の桑原翠邦(帯広市出身)をはじめ、日展、毎日書道展、読売書法展など国内公募展で活躍する書家を輩出するとともに、多くの指導者が育ち、生涯教育の場として、多くの市民が書を学んできました。

近年、高齢化が進み、書道人口が減少していますが、高校生、大学生や卒業後も制作を続けている若い人たちは少なくありません。道内の高校や大学は統廃合や定員減により、書道教員の採用が少なくなっています。書道を学ぶ環境が低下するとともに、若い書家が書道を職業とする機会が失われてきています。こうした状況の中でも、道内外の書道公募展に作品を発表し、優秀な成績を収めている人たちが存在します。彼らを支援する必要があります。

また、北海道書道界の隆盛を築いてきた先人たちの活動を後世に伝えるために、作品調査や資料収集および保存を進めなければなりません。北海道の書道の足跡が歴史に埋もれてしまう可能性があります。公募展の作品集や新聞記事などの資料を調査し、デジタル化による保存が必要です。

このような状況の中で、書の道を目指す人たちに支援し、書道関連資料を保存し、北海道の書道文化の振興に寄与するために、市民の手で特定非営利活動法人を設立して、展開していこうとするものです。

設立 2019年3月7日

理事長 村田正敏

活動内容 1. 道内書道家の育成・支援事業  
2. 道内書道関係資料および作品調査事業

ホームページ <http://www.kitanosho.jp/>

## 第4回中野北溟記念北の書みらい賞掲載記事 2024年

「北の書みらい賞 大賞に小室さん」北海道新聞 5月9日

「北の書」大賞に幕別の小室さん 毎日新聞「辞林」 5月17日

「北溟記念賞きまる」美術新聞 6月5日

「ひと2024 第4回北溟記念賞で大賞を受賞した小室聡美さん」北海道新聞 6月8日

「登別の書家・寺沢さん奨励賞」北海道新聞 室蘭・胆振版 6月14日

「十勝初、幕別・小室聡美さんが大賞」十勝毎日新聞 6月17日

受賞結果「第4回中野北溟記念北の書みらい賞」美術の窓 7月号

## 中野北溟記念 北の書みらい賞 受賞者一覧

- 第1回(2021年) 大賞 北川和彦(剣淵町)  
奨励賞 入船心太朗(占冠村)、小林聖鳳(鹿追町)  
天満谷貴之(函館市)
- 第2回(2022年) 大賞 磯波水鈴(函館市)  
奨励賞 伊藤寒岳(留萌市)、井村航(松前町)  
高橋柳泉(幕別町)、三浦亜友(札幌市)
- 第3回(2023年) 大賞 高橋竜平(札幌市)  
奨励賞 赤間裕堂(音更町)、木柳不吟(旭川市)  
栗本万由有(愛別町)
- 第4回(2024年) 大賞 小室聡美(幕別町)  
奨励賞 池田憲亮(小樽市)、寺沢霰花(登別市)  
中川佳奈(北見市)

発行／特定非営利活動法人北の書みらい基金

印刷／中西印刷